



学校だより

令和4年5月2日

5月号

学校教育目標
～生き生き日枝っ子～

横浜市立日枝小学校

「子どもに学ぶ 相手を想う気持ち」



校長 加藤 智敏

桜の木々の若葉の青が光の中で鮮やかに輝いています。始業式、入学式を終え、新しくスタートを切った今年度も気付けばもうひと月が過ぎようとしています。ゴールデンウィーク、正にその名の通り、年度の慌ただしさを乗り越えた後のほっと一息できる時間です。

人とのかかわりを大切にしてほしいこと、相手を想う気持ちを大切にしてほしいことを始業式の挨拶で子どもたちに話しました。そのような中、このひと月、様々な子どもの育ちを目にすることができました。

登校してきた子どもたちが「校長先生、おはようございます。」とニコッと目を細めながら元気な声で挨拶をし、教室に向かう姿。昇降口が混雑するときは高学年が低学年に「先に入っていいよ。」と優しく声を掛け、譲り合っている姿も見られます。雨の日には、傘を少し「かしげて」互いの傘がぶつかり合わないよう気遣う姿も見られ、感心しました。また、休み時間の運動場では、背の高い6年生が1年生のためにしゃがんで話しかけている姿を見かけ、相手を意識するとは正にこのことだと思いました。

今から十数年前に、パナマ日本人学校に勤務した頃、スペイン語（パナマ共和国はスペイン語が公用語です）を話せず不安になっていた私を迎えてくれたのは、現地のスタッフの優しく温かい笑顔でした。後日、スペイン語を少し話せるようになったときに、その時嬉しかったことを伝えると、「私たちは毎年子どもたちや先生を迎えているよ。みんなスペイン語を話せるわけじゃない。そんな時一番気を付けているのが、冷たい表情を自分がしていないかどうかなんだ。」と話してくれました。

このひと月見てきた子どもたちの挨拶や声掛け、他学年とのかかわりの中には、いつも温かい表情、相手を想う気持ちや仕草がありました。それは、私がパナマで暮らし始めた頃感じた安心感と同じであるように思いました。今、学校は柔らかな春の日差しとともに、子どもたちの温かい表情、温かい気持ちで満ち溢れています。

3年ぶりに実施した土曜参観。感染症への対策を講じ、人数制限、時間の制限を設けながらの参観となりました。保護者の皆様には、ご協力、ご配慮をいただき、誠にありがとうございました。子どもたちの様子はいかがだったでしょうか。元気よく自分の考えを述べる姿、じっくりと問題について考える姿、また、中には端末を活用して調べたり、考えをまとめたりする姿。子どもたち自身も新しい仲間との授業にまだまだ慣れない様子が見受けられますが、次回の参観日にも是非足をお運びいただき、子どもたちの育ちの様子を見ていただきたいと思います。

また、4月中の集団登校の期間、保護者の皆様、地域の皆様には、子どもたちの登下校を支援いただき誠にありがとうございました。様々な学年で構成された登校班が歩を進めるのを温かく見守っていただいたおかげで無事登下校を行うことができました。保護者や地域の皆様、そして、多くの関係機関の皆様の子どもの想う気持ちに支えられ本校の教育活動が、豊かに充実しておりますことに心よりお礼を申し上げますとともに、今後も「生き生き日枝っ子」の具現化のために更なるお力添えをいただけますようよろしくお願いいたします。